

繪本豐臣勲功記

四編
十





繪本豊臣勲功記四編卷之十

目錄

秀吉ひだり義志ぎし不達ふたつ令幸しやう盛害せいかい

屬怒いかり諫いさめ信しん忠ちゆう

揚州やうしゆう攻秀こうしゆう吉隆きくわん高山こうざん中川なかつがわ

屬取とり大矢おほや田た



Vertical text on the left edge of the page, likely a library or collection stamp.

平山合戦別所諸士戦死

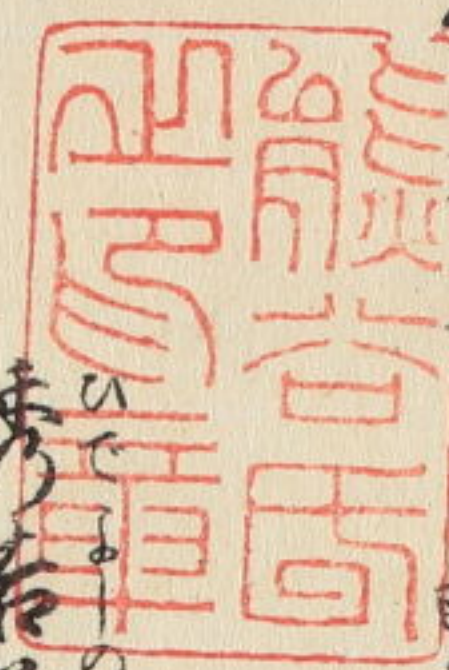
属 治定最期

受謀秀長陷丹生山柄寨

属 石野合戦



繪本豊臣勲功記四編卷之拾



江戸 八功舎 徳水剛補

秀長義志不達令幸盛害属怒諫信忠

門を同ふさる伐朋といひ志を合さるを友といふ君子の交ハ淡ふしと
水の如く小人の交ハ甘ふして醜の如く茲小秀長光秀ハ其功上下
ありといふとも。同門同志の朋友なり。管飽の情をくんばあはれ然ハな
くして羽柴が功を嫉之猜ましく大事の軍を妨ぐること百代の後まで
汚名成りく。折苗腐る人とは知らざり。然ハ轉見川の合戦にも依
久間流川氏家の人の、折骨なりて戦を猜へ軍をるの成自己が
起り過もつ。羽柴にこそ伐讓るのそりハ各等ハ却て遠場を避て
暮び戦えんともせざる。信不義とやいもん不忠とやいもん其のそり

以意本まで謀反の萌あるをもく秀吉の約を背さうこと命先秀が
 所為なり是いま中国の軍務に時熟さるふやありぬらん期に將
 柴筑前守軍を收めく高倉山小を帰里悠然として嘆息さく今殺
 の軍小中將殿遠地小出陣すまき必定期勝利を更けり代安雲ひ
 うりを覆ふこそ歎きても猶あすう河を期て内府の御本意を達し
 得る期のあるをうくと只願勞煩かたりるなりと响小に別安去に願
 て行中、約されたまは内府より御出馬あらん其御準備すまは
 とら務小信忠公より御使者來りて御出馬御用の赴任頻すまは
 らまきるが先秀信盛も使者をまわせ借に御下向を止まらるこれ小
 よりて信長公にも御出陣成程玉ひ、御生渡の誤にして永さ弓矢
 の恥辱とあり小たり其のまは内府より毛利家との對陣を量る

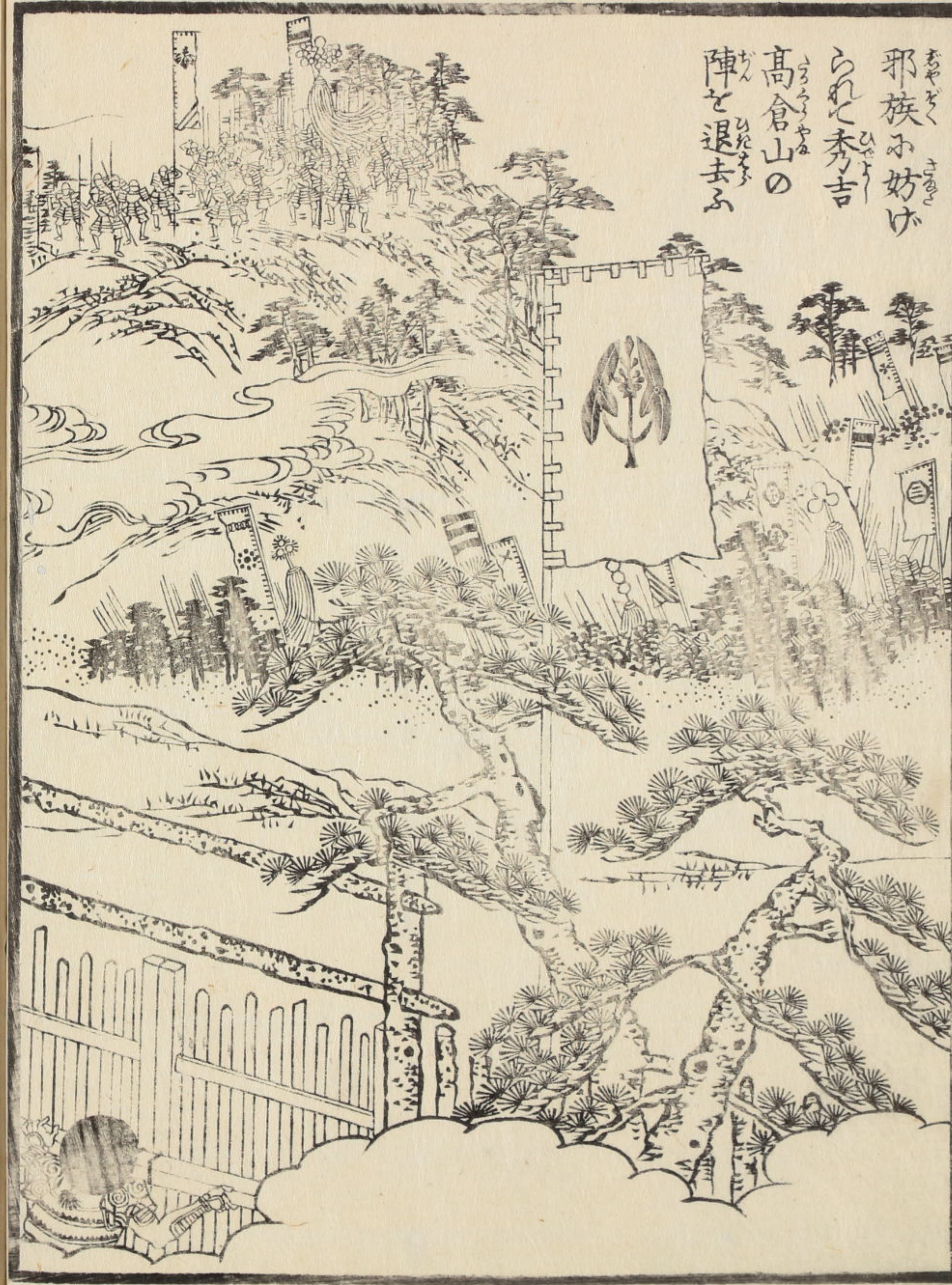
六早く上月を退去す一之木城を攻めたり信忠秀吉への親意なり
 使者搦門下若して遠言を御柴へ告たりし筑前守小憐さ何故
 御出馬されこと小やと氣急交りて訊ねたり小使者も言ふる言成知
 らば中將殿小讓りたる由忍重小上使を傳ふて御麻御麻 御麻に在り御
 陣小参上遠時信忠陳を志中將殿小觸多の味極れりまわらせ内府公より使者を
 召され二月退陣のこと代命せられいなる由忍小いそと訊ね中
 將信忠公其義ハ別の思材小あはれ中国勢ハ三年も抑陣すまは准
 依りて國中の款も夥多され對戦今度小限るくはまつ國中成
 鎮めく後中國退治すまは命せ小秀吉座を整へ内府の重
 き命令ありて中國征伐を小長小許しむふと御命なり御便なるを
 先利の三家出張するを頼ひなき有るの一戦遂まうさん小継令十

分小敵むとも一遭款を返崩る。後日の征功まに中り。遠遭内府
 所下向あつて。所指揮を加へ玉とる。諸軍一致なす。めく。勝利を
 得ること必定なり。ん既小昨日加勢の使率們過りて。合戦起る。ぬ
 自軍待度。尼子の所りる。司令の大將を記す。其意をよ
 づいそや。今上月を退拂り。城中小凝守る。尼子が。幸毛利のため
 に改殺されん。山中が如き。誠忠の士。八百方の。駛率にも。易く。つ。活る
 勇士小仁義を施し。救ひ玉とる。内府のよ。命を棄て。忠を竭さ
 人。漢小法入と。韓茂忘まぬ。張良小も。不。考る。其。む。り。か。ハ
 中國攻の。導路。小。玉。雙の。恙。り。彼。此。も。つ。く。見。殺。し。に。さ。る。ハ。武
 將の。恥。る。所。為。り。怖。く。ハ。安。土。境。へ。遠。義。を。命。せ。あ。け。ら。ま。く。内。府
 所。下。向。す。り。ま。さ。と。う。然。る。く。ハ。儲。君。こ。れ。り。也。小。上。月。境。へ。所。出。馬。あ

る。く。之。も。く。も。頼。り。や。と。懐。激。く。言。状。志。を。ま。と。信。忠。こ。れ。我。諾。
 玉。も。だ。こ。れ。は。固。く。秀。吉。も。カ。さ。り。く。多。念。に。帰。里。能。井。新。十。希。と
 り。者。を。呼。出。し。此。新。十。希。ハ。尼。子。の。臣。を。り。山。中。の。命。を。受。く。ま。い。ふ。内。府。の。出。馬。を。以。事。ら
 ら。饒。者。小。事。を。障。ら。ま。し。糸。精。く。と。ま。浅。門。禪。し。俺。們。遠。地。を
 還。去。せ。共。務。久。か。よ。ハ。幸。盛。海。敵。死。せ。ん。と。最。憾。し。厥。を。助。々。ん。と。お
 り。ふ。の。之。丈。ハ。明日。早。天。小。城。中。より。款。弱。め。ん。方。小。突。出。片。時。が。際
 我。不。慮。し。我。亦。其。胸。一。隊。を。も。つ。く。其。隊。を。破。り。て。務。久。海。を。救。帰
 了。中。より。ま。さ。と。小。密。に。遠。由。成。山。中。幸。盛。小。通。び。着。し。と。命。を。領。受。
 新。十。希。幸。く。款。陣。を。潜。行。難。き。く。上。月。の。嶽。小。入。里。秀。吉。右。の。厚。意
 我。通。し。け。ま。志。幸。盛。大。小。力。次。表。し。備。ハ。信。長。出。陣。さ。く。諸。勢。も。帰
 陣。せ。り。く。と。や。天。を。り。命。を。り。尼。子。家。の。運。ら。み。て。柵。ま。り。ぬ。然。を



豊臣記 卷之十



邪族小妨け
られて秀吉
高倉山の
陣と退去ふ

豊臣記 卷之十

秀吉志氣厚く寸功もなれ俺們を自力のそふく救出し。後業は料理あること。懇切謝する所あり。さうさうあるが城の中よりお救いも款をい。要害堅固。小隊を遣ひ。孰陣も弱き方なし。小勢成も川と大款を打破せんことをかりひよるべ。最も秀吉一隊をもつて君と咱方の助出。一人金ふまふまども。從之へはを殿とし。又秀吉が從之も。我死負ふ多かりん。從令遠方を金ふまとも。救多の將率我殿せむ。義とやいせん。信とやいせん。勇士の取ざる所あり。誠小室より厄子家を亡し。玉ふの時を逃る。救て難なる恨む。只遠上の俺們を三款小傳へて切腹せし。殘之の命は救ふ。と新十郎小室に係ひ。是下再び高倉山ふも。羽柴が芳志の恩を謝し。志して君殿が覚悟を告ぐ。とを体ふ。これを羽柴が許へ遣はし。けき。

秀吉大不感嘆あり。又も竹中を使者として。信忠を初めまぬ也。上月に一戦せむ。ありんと。嘗て兼頼をけふ。長嘆する。鐙かきりなく。今厄子を救ふ小勢。遂小退陣と決定を。時小六月廿七日秀吉小惟任。小室の長秀を招ぎ。今夕遠地を退人と。然るを定る中。國勢。退殿せん。必定向し。小室は抵抗の一計あり。我に告りて諸將小室を。嫉妬偏執の瀧川。佐久間。多く用ゆることあり。只是下の心よりして。之夫志する中。に尋らひ。那般く小室をへ。と退陣の善策。示し。くれ。長秀。慎んで兼頼を。とに諸將の陣小到。退路の計略を報け。各々議を。兼頼して。我もくと。准儀せ。由秀吉遠を視。大に怖び。陣小拘。明日ハ。上月後援の軍あり。門を新骨せ。ら。と。款方へ漏り。中。小。風。徳志。今。中。國。勢。も。これ。を。所。る。也。

も何となくと考へ准依るに。織田の陣は黄昏より。禁火の光さかん
 小くいかに小も其糧の炊淀の態なり。既小女八日の曉去らる。上方の備
 勢次第をうつく。東の方へ退拂ふ。筑前守秀右衛門高倉山の峯に陣
 依て自軍の退陣法最朽滅見替してありけるが。中國勢ハをまこと
 見るより。逃散せんと喘りけるを。元春降系くく制止し。秀右衛門上
 小隊依たまへいなる計策あらんも。初まに。疎忽小蒐る處か。は。と。勢
 却る。ゆりたる由。羽柴主従距後して。志川く書寫山へ退去せし
 へ。くも朽滅りける次第なり。然れど。上月城小の。織田勢悉
 く退陣せしを。刀あけ小見送す。山中者盛まこも。愁び。主君
 勝久にうら向ひ。今日まで。救年深窶して。幸甚。法凌ぎのこと。も。自
 家再興の。あり。うとも。弓折武運。も。果る。方。僅ハ。莫く。適る。

遠上へ君と小島と。深く自害を遂て。諸士を助命あさく。めま
 一切く。こままで。忠告せし。諸士群衆。賞賜いなくとも。衆小易し
 て。切腹あり。後者を助け玉と。大將の仁徳ぞと。知れ小勝久。莞
 尔と笑ひ。よくこそ。知れまうしたま。我も。改より。其意を。速に。准依
 り。これ。よと。吾小孝盛。大小悦び。急ぎ。款陣へ。使者を。は。く。城。中。覚
 朝の。始終より。諸士の。助命。法。相違。たり。代。元春。降系。く。是。所。所。庶。之
 助。信義。を。感。早。速。兼。様。の。返。言。く。香。川。兵。旅。を。交。春。継。檢。使。平
 賀。六。弟。左。衛。門。元。佐。檢。使。を。檢。使。と。して。上月。城。へ。は。ま。く。な。ま。ば。孝。盛
 懇。懇。小。こ。ま。代。請。入。し。主。君。勝。久。の。切。腹。せ。し。法。分。措。ふ。し。遠。敵。也。も
 て。備。小。軍。之。由。こ。小。探。して。自。心。の。所。存。を。張。り。争。く。演。了。し。壯。十。文。字
 に。檢。斬。ハ。小。林。勘。助。少。錯。せ。り。時。小。尼。子。孫。四。弟。勝。久。行。年。十九。歳。山。中

皇國言四録卷之十

五

庶之助幸盛行年四十六歳有りける。秋も自軍も一様小憾まぬのみ
こそ有りける。既小主従自害志けしを。香川平賀の両檢使敵を抱
へて帰陣さし。城中の事幸盛が義言滅志さく主君へ若くは元
春降参威歎さし。君臣の誠誠推拂におさめ。本國雲州富田へ愧りて
懇小葬吊せしむ。備も筑前守秀右へ尼子主従が自殺を听悲嘆
やるくさるまじに。佈摩の本陣小到り。信忠公小謁し。まゆせ。泪
流してまうされける中。小臣恭び濟出馬を勧めたてまつるとい
ふ。いふも。こまは深業深まらまじ。強く帰陣さす。命せふ。尼
子を并て退去せしこと。久まじくも朽滅有りけし。内府原在軍事
におわく。意しつせむこと多く。一遭出馬を定めまはし。いふ事
も其日限城遠くを進發志むひし。遠般小おわく。先達て所

下向ゆさ余せといひ且行中も言状せし。堅く濟出馬の約あ
るが。余幸に愛約志わふのそ。諸將をまじく退去ふ。と濟下辭
あるこそ心得。こまは此言を傳言せむ。人バ居たるりの。道小遠ふ。いふ
所順ひるけしを。其意をりく若くはせしむ。依てをれを願は
理解の玉抱。言状ささん。今ハ益む。言さす。後日のためふ。いふ。備
小听し。めさるべし。遠般上月を退去せしこと。秋小威勢を添ふるのそ。う
備む。軍の号。城を。一。尼子を捨させむ。いし。こと。永く。濟家の。和と
は。され。里。并。も。中。將。居。遠。國。へ。下。らせ。る。ふ。い。上。月。城。の。後。援。を。志。さ。る。
ため。を。い。げ。や。それ。が。書。寫。山。小。折。而。河。り。て。小。臣。僅。僅。は。く。ま。つ。れ。ど。も。
内。府。の。濟。下。向。ま。す。ま。ま。と。ま。ま。と。合。戦。を。止。さ。せ。む。ふ。その。地。謀。も。預。了。
推した。ま。ま。と。も。内。府。の。濟。下。向。ま。す。ま。ま。と。自。軍。の。務。利。と。謀。ま。す。も。若。何



飾摩の陣しりまのじんに
羽柴筑前守はてはたけのちくぜんのかみ
中将信忠ちゅうしょうのしんちゆうと
強諫きやうけんす

鳥羽日記

緯も言はせしし。信長公まで出陣せしは歸陣あるべき命に是
 非なく。過去をさし。始終會是譲る邪徒ありん。倘や中
 國邊治事とす。中らに遠功なき。自己の功のなき。やとる。嫉妬偏執の
 んある者。非強理と稱して言はせし。中將も。め内府まで。實理と
 おがされ。所出馬を止させし。ありん。是を所。父子。所生涯の過失
 と。な。と。た。く。ま。ゆる。口。海。一。統。平均の。所。志。も。形。て。ハ。其。功。成。統。一。と。し。
 光陰の移去。こと。ハ。弦。を。離。き。一。箭。より。も。疾。く。虚。く。月。日。を。経。む。や。う
 ち。小。内。府。様。も。め。て。す。の。里。忠。義。の。勇。士。も。光。衰。あ。り。て。命。殺。終
 る。の。期。に。い。つ。も。何。と。く。所。不。意。成。達。せ。ら。る。ぞ。織。田。家。の。軍。威
 猛。な。れ。ども。毛。利。の。強。衆。に。及。ぶ。も。な。ら。ず。款。小。嘲。罵。せ。し。ま。ん。こと。
 朽。憾。も。ま。く。腹。懐。を。り。い。或。ハ。怒。り。或。ハ。歎。き。誠。忠。一。途。に。ま。じ。ら。る。

小ぞ中將親く所心はるも頻に嫉懐せしきなり

揚州攻秀右降高山中門馬取大矢田

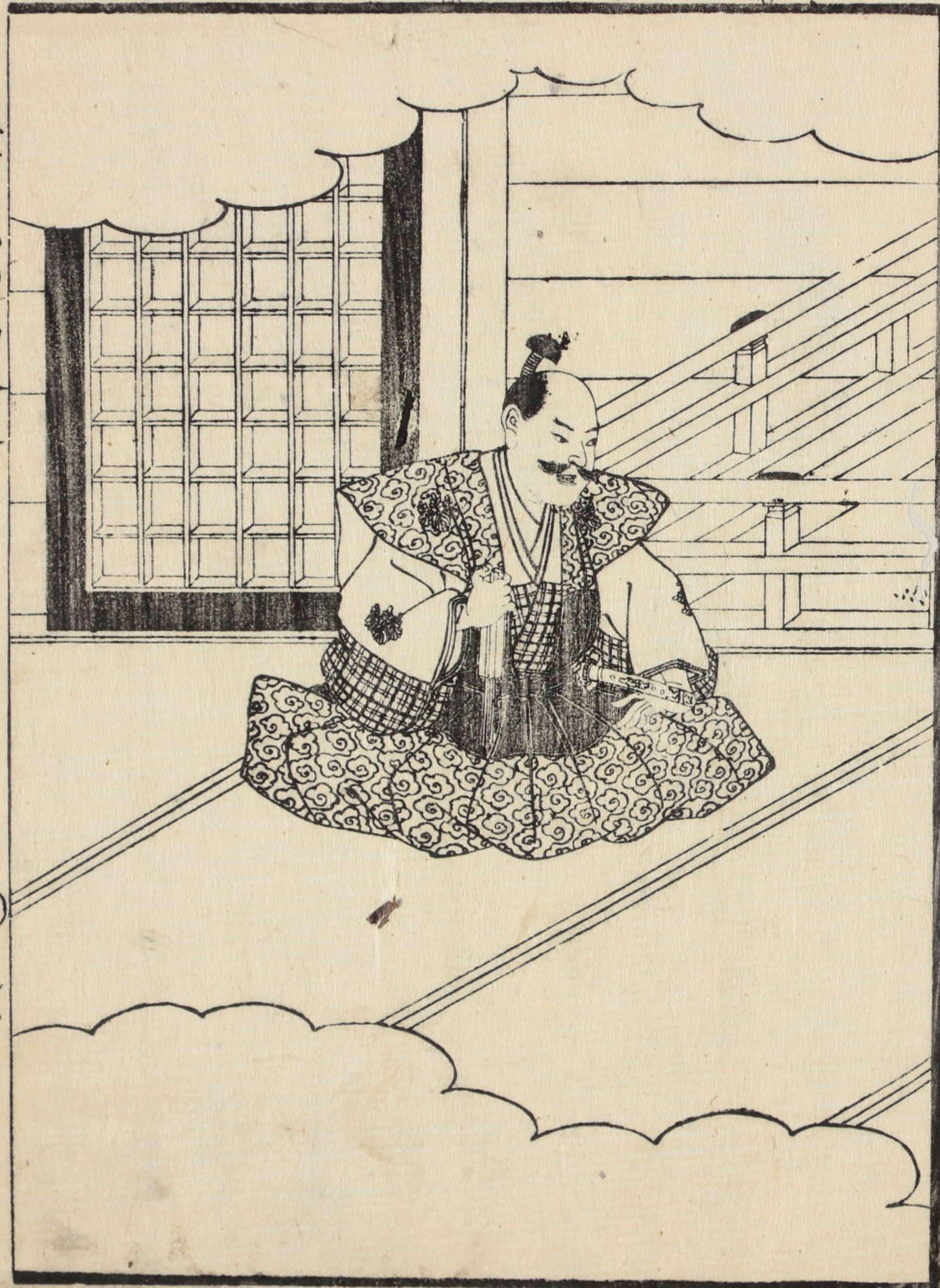
照くするをもつ。仁とる。子。たる。成。義。と。き。井。中。小。座。して。天
 を。小。さ。り。と。き。是。誠。愚。なり。と。謂。さ。う。ん。や。然。バ。信。忠。相。業。を。保。め。小
 かとく。嫉。懐。を。り。五。ひ。先。こ。の。う。へ。の。秀。右。が。面。達。も。何。を。バ。神。志。教
 成。改。臨。さん。と。お。が。し。め。た。ち。親。小。神。志。を。攻。ら。せ。ら。る。小。城。兵。こ。さ。び。く
 防。今。こ。い。へ。ども。織。田。家。の。勇。士。倭。寇。我。ら。中。に。も。將。業。が。股。肱。の。臣。臨
 坂。基。内。一。番。系。以。これ。小。より。て。要。渡。破。是。大。將。氏。親。が。補。ハ。叔。父。なる
 人。神。志。を。友。友。に。害。せ。し。れ。城。兵。總。く。降。参。し。けれ。バ。遠。圖。小。系。て。志
 敵。小。推。進。以。い。ま。ご。奉。送。に。到。さ。る。ら。城。主。橋。本。左。兵。衛。亮。明。城。あ。り。て
 遷。去。せ。り。影。さ。そ。か。を。号。せ。び。く。と。激。と。も。に。簡。矣。と。き。を。これ。を。も。つ。て

利道とていひ。都師へ降軍せられし。備秀右の二隊を以て。播磨播
 西成推後ろんと云々の城攻を種く之夫。まづ軍營成結搦せんとて。
 三石笠山の東面なる平山の麓に秀右をうつら。輪く然る隊營を後
 西の方の官部若佐房。其峯候より南面小。服坂加後。若若。路頭
 賀。後。後。尾。貫くとして。連隊をさせ。要又まびく。値てう。それ
 八揃を信忠へ。播磨を秀右に任せおられ八月十六日成りて。系部一降降
 せられけるが。軍中に加えりける。意本折津守村重。頼く内府成恨
 む事あり。多倉山。の陣小ありても。秀右の軍約を背に。合戦を餘
 所小見しりしが。降降の後。念。謀殺の氣色あり。それな。護長
 至て。處を混へ。内府へ悪評をけるふり。松井友閑を使者として。伊丹
 の城へ。居城也。は。つ。え。され。其趣意を。听し。め。さ。る。に。元。來。村。重。兵。の
 子け。と。終。雲。晴。を。障。る。小。同。く。内。府。を。恨。ま。ま。お。さ。り。か。遠。邊。翰。問
 の。使。者。成。得。て。一。端。を。事。に。お。さ。め。ん。の。と。別。心。お。た。り。陳。謝。さ。り。茲
 ら。内。府。へ。解。勅。さ。り。参。候。さ。さ。り。成。期。約。し。松。井。の。安。去。へ。降。り。こ
 り。と。も。意。本。の。方。に。も。新。者。あり。て。その。中。間。を。妨。げ。さ。り。遂。に。安。去。へ
 参。候。せ。だ。これ。小。隊。く。信。長。公。に。も。今。の。思。ひ。を。や。あり。け。ん。十。月。之
 日。成。り。と。意。本。を。征。伐。す。ま。せ。んと。折。川。境。へ。進。發。し。る。先。陣。成
 川。惟。任。惟。任。若。若。安。后。福。系。氏。家。後。此。勢。合。せ。と。二。方。餘。勢。本。川
 へ。槽。塚。を。回。要。産。小。據。て。陣。搦。り。信。長。公。の。天。野。山。を。濟。す。陣。と
 ず。ま。ひ。信。忠。の。天。神。山。小。陣。せ。る。其。外。の。諸。將。の。合。都。て。意。本。に。城
 中。川。清。秀。へ。當。向。ら。れ。若。若。結。搦。を。せ。り。然。る。小。羽。宗。秀。右。の。搦。川
 の。居。城。を。り。平。山。に。在。り。と。も。意。本。征。伐。の。事。を。听。許。中。淺。野。小。隊。を。信。せ。二。千

豊臣日記

餘騎を率領して。栲別野山の信長小池を去る。其本選治の軍議をみし。秀吉熟く村重が謀叛の趣意を考慮に。これ本心より發起し。村重人終者の虚妄を添して。醜せし不為と察悟せし。いかふもあらず。村重茂実めんと之を以て。以後練死れども。村重又子猪老居。内府の信義を死を思ひ。一國羽柴が徳め小服せ。依て秀吉又之を以て。其本が腹心將佐に招き。然して后小村重をも。自然と降服せしむんとおもひ。まけ高槻の城主たる。高石近長房の。其本が股肱の將佐にして。殊小智勇の將佐れば。これを降服せしめんと。方術も遠小者なる事あり。當時吳邦那蘇國より。日本へ渡り。邪宗あり。そをが導師を伴て。連と称し。諸國を徘徊して。愚民を惑はす。奇怪の術を行ひ。ひきき。遠宗門に帰入して。秀吉致さるもの。まじふ。以後小歴の縣令吏曹。

城主國司に。おるまで。耶蘇宗門を降服せしむるが。信長にも遠由を祈し。めされ。彼伴天連を昭家ら。是。奇怪を信仰す。くくる。由名秀吉これ。成いさめけるが。信長にも預て。邪術を悟られ。遠宗をりて。秀吉む。今我國の時を。何の用。小達とも。や。近づけ。是れ。と。宣ひ。一。羽柴も。これ。小安達して。其後。ハ。嘗て。練め。さ。り。しか。高石近長。と。め。し。里。遠伴天連を。添く。降服。す。又。君の。如く。考ふ。こと。成。秀吉。傳。听。一。か。バ。計。略。成。ぬ。と。内。府。に。謁。謀。を。通。し。り。固。く。信。長。伴。天。連。を。昭。家。高。槻。の。城。小。入。く。右。近。を。將。佐。小。降。せ。る。耶。蘇。宗。門。を。未。永。く。日。本。國。小。置。置。下。一。倘。亦。降。伏。あ。さ。し。人。を。忽。地。宗。有。を。蒐。絶。さん。替。て。これ。を。料。理。為。れ。と。稔。意。成。奉。て。導。師。伴。天。連。也。地。小。高。槻。の。城。小。入。り。高。石。近。に。對。面。す。一。内。府。小。降。服。これ。河。



筑前守
 智を以て
 荒木村重を
 説く伴天連
 を用ゆ



ら。我宗門の之事を得ん。倘降服せざる小おなぐハ耶頼宗此滅
 亡觀面ありん。万乞急怒を垂めん。とさぬぐ詢を嘆さう。石近も
 臣致渡りさる由急。宗旨の断絶せざるやう。執事とんと返答して。
 通守師致送帰したり。秀吉今之事成りまると内府小若く付云
 連同伴。高槻小往て右近に報じ。長房これを出迎ひ。對面志け言
 羽柴が曰。村重をんれ新縁もあく。謀叛の心底諒か。激小自滅
 致招ぐの端由急。我も他幸の懇懇あるは。真文を對小忠びされ
 べさぬぐ。孫め喰はといども。嘗て柔結せさされ。内府も彬不
 く出馬志ぬふ。然るを足下も急本に義を盡小奉。致ちりて大事
 を廢る。激小愚痴の計議あり。快信長の濟陣小冬らま
 天下のよ小忠義を尽さ。村重父子のため小あり。其故は今

信長公遠地へ出馬ありといども。征伐を急を濟不存。内府の將佐は馬
 一。時々村重に疎釋して。過を説和を願も。信長も人ぞ不義不仁に急本
 致征伐せざる。早速濟免りんこと。秀吉期合するは。然され。是
 下れ義も達し。忠も達するは。諸人致救ふに。智若行。これ小超言
 切あり。今柳の義をちり。内府の咄小順。軍城わく。村重小も。
 濟將の重。終小急本の後頼。一門滅亡せんこと。必定あり。小理を弁
 と大事に。推柄。粉沫を。是小過。義の。乃夫急本の
 從頼ま。亡びんこと。成り。不忠び。得て。遠理。志め。寸志。致
 施も。ところあり。と。理非。明白に。洗。高。山。忽。然。と。量。情。小
 小。長。失。理。して。快。く。濟。陣。に。急。る。こと。愚。の上。此。是。人。是。下。此。教。に
 速。雲。晴。り。只。遠。上。八。濟。前。よ。ろ。く。信。成。終。ひ。た。く。ま。い。る。と。座。を。譲。り。て

豊臣記四編卷之十

十一

津附の流石も大に悦び然るに速に是を右近侯付ひ之に
 ある内府の所陣に歸來し所奉へ推挙をさせめたるに内府所
 顧みなく所懇の令せありけしを右山右近もいとありけし
 りひに任したり。茲ふ又茨木の城主中川瀬を衛清秀、
 眞実之二の將依れども遠殺意本が謀叛の事、奸人誘者
 べ清秀これ侯体許さるるにも、村重遂に所容され中川
 今度羽柴が初命機會も初侯藩と和せ初めが、松津
 今度これを瀬を清も公の勢力なく、意本一家の滅亡の時
 歎けける。秀長平日に清秀が、援群の智勇、侯賞
 傍人と便成清く在たりし、右山右近が將依に負う、
 侯便ふれと長房をりて初めとせん、と右近を招き、
 本の城小遣さるるなり、右山右近は中川と之の朋友あり、
 出迎ひ、辞義相早りて長房謂り、乃希織田家に属せ、
 人の不義の所為とかり、これ故に義本に死をあり、
 此料理あり、村重遠殺の謀ふおいて、當たる事もあり、
 信じて内府を恨む止と、侯侯に款附は村重、いふ智
 と辞を争ふ、いふを、侯の理何らんや、亡されんこと、
 これ織田家に属し、天下へ忠誠達すと、謂信長を、
 征伐の事、侯延忍させ、月日経る際、小義本を、
 乃希一命に替る事、内府の命、初めは宥め、
 あり、然らば、義本村重を、諸士の命を、
 ばや、遠項村重誦を、宥ぬ、憤恨胸裡に、

小の城小遣さるるなり、右山右近は中川と之の朋友あり、
 出迎ひ、辞義相早りて長房謂り、乃希織田家に属せ、
 人の不義の所為とかり、これ故に義本に死をあり、
 此料理あり、村重遠殺の謀ふおいて、當たる事もあり、
 信じて内府を恨む止と、侯侯に款附は村重、いふ智
 と辞を争ふ、いふを、侯の理何らんや、亡されんこと、
 これ織田家に属し、天下へ忠誠達すと、謂信長を、
 征伐の事、侯延忍させ、月日経る際、小義本を、
 乃希一命に替る事、内府の命、初めは宥め、
 あり、然らば、義本村重を、諸士の命を、
 ばや、遠項村重誦を、宥ぬ、憤恨胸裡に、

終るのあふ。雙方穩便の心成生せん。殊小若木家先年より天下
 小討して忠功成。賜されし事ハ諸人もよく。これを知らずれば其功を
 りて罪を贖ひ。宥免を請ふ。我一個に料理せん。是下と共小
 若木に志す。穩便内府是下の智勇。殊に賞與し。懇をせり。これ
 方僅是下を憐ひ。内府の心成。成せり。后和平の方。御にささん
 と欲は。是下今尚遠。理不。迷ひ。内府に降。降志。玉を。信長不。快
 此。あり。あり。て。我。亦。い。い。解。解。知。とも。美。謀。の。量。お。つ。り。あ。り。是。下。此。心
 心。と。ら。に。因。り。若。木。の。存。亡。成。定。む。る。可。ぞ。願。く。い。う。く。明。察。あり。く。乃
 弟。と。共。に。忠。義。を。竭。し。大。功。を。建。立。す。と。道。理。を。責。て。東。へ。け。り。に。て。
 瀨。美。清。美。より。其。意。何。事。とも。村。重。更。小。妹。を。宥。ひ。信。長。も。ま。す。許
 する。と。覺。期。を。變。して。牢。城。せ。り。小。方。僅。高。山。が。判。む。る。可。く。中
 小。借。ひ。一。く。兩。便。穩。心。の。返。答。して。右。近。と。共。に。城。と。出。羽。柴。ヶ。陣。を。候。
 以。秀。若。木。心。中。大。に。快。び。内。府。の。濟。陣。へ。付。ふ。たり。信。長。早。速。對。面。せ。り。れ
 快。快。ある。こと。源。里。を。林。妙。の。む。い。令。せ。り。て。本。領。安。達。さ。さ。め。け
 れ。バ。中。川。大。に。感。快。す。恩。義。を。謝。して。退。出。たり。秀。若。木。中。川。成。情。地。不
 振。を。大。夫。田。の。城。主。安。部。仁。右。衛。門。を。將。依。に。付。く。勢。に。謀。を。示。さ。る。小。瀨
 美。清。美。義。多。く。孫。と。急。を。彼。取。一。赴。さ。け。り。并。も。遠。大。夫。田。の。城。と。い。ふ
 へ。大。坂。伊。丹。尾。傍。へ。通。路。自。在。の。處。ある。由。若。木。の。た。り。に。要。の。地。あり
 固。く。秀。若。木。智。謀。成。領。し。中。川。を。降。せ。大。夫。田。此。城。を。自。軍。の。有。さ。る
 一。大。坂。伊。丹。の。通。路。を。取。人。と。討。殺。し。事。あり。中。川。智。辨。を。獲。取。り
 て。安。部。仁。右。衛。門。を。降。ら。せ。り。吊。地。小。内。府。へ。納。り。け。り。也。信。長。ま。ま。く
 禮。成。せ。り。れ。仁。右。衛。門。瀨。美。清。美。人。へ。所。太。刀。所。馬。黃。金。等。賜。賜。せ。り。れ。

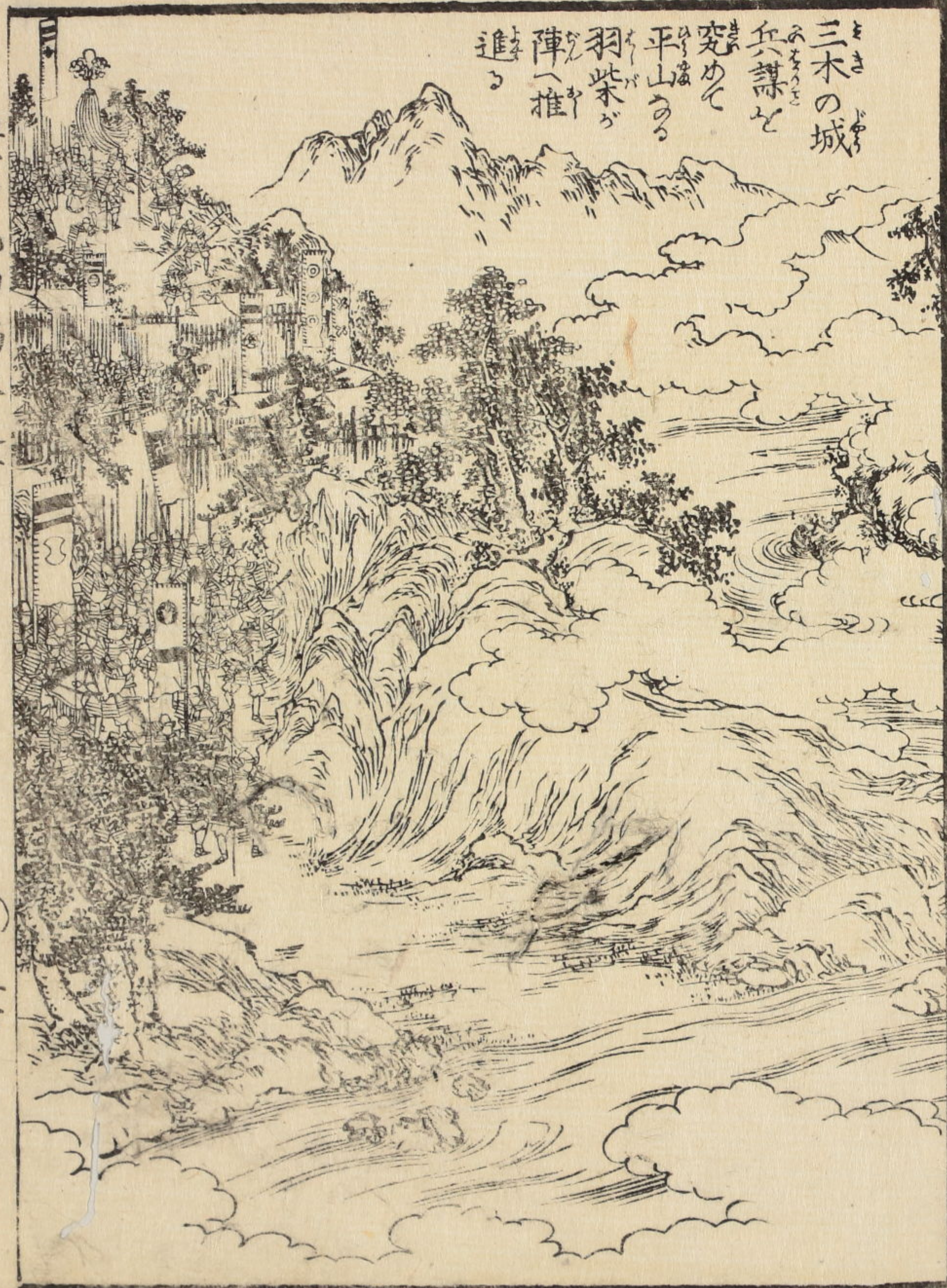
終るのあふ。雙方穩便の心成生せん。殊小若木家先年より天下
 小討して忠功成。賜されし事ハ諸人もよく。これを知らずれば其功を
 りて罪を贖ひ。宥免を請ふ。我一個に料理せん。是下と共小
 若木に志す。穩便内府是下の智勇。殊に賞與し。懇をせり。これ
 方僅是下を憐ひ。内府の心成。成せり。后和平の方。御にささん
 と欲は。是下今尚遠。理不。迷ひ。内府に降。降志。玉を。信長不。快
 此。あり。あり。て。我。亦。い。い。解。解。知。とも。美。謀。の。量。お。つ。り。あ。り。是。下。此。心
 心。と。ら。に。因。り。若。木。の。存。亡。成。定。む。る。可。ぞ。願。く。い。う。く。明。察。あり。く。乃
 弟。と。共。に。忠。義。を。竭。し。大。功。を。建。立。す。と。道。理。を。責。て。東。へ。け。り。に。て。
 瀨。美。清。美。より。其。意。何。事。とも。村。重。更。小。妹。を。宥。ひ。信。長。も。ま。す。許
 する。と。覺。期。を。變。して。牢。城。せ。り。小。方。僅。高。山。が。判。む。る。可。く。中
 小。借。ひ。一。く。兩。便。穩。心。の。返。答。して。右。近。と。共。に。城。と。出。羽。柴。ヶ。陣。を。候。
 以。秀。若。木。心。中。大。に。快。び。内。府。の。濟。陣。へ。付。ふ。たり。信。長。早。速。對。面。せ。り。れ
 快。快。ある。こと。源。里。を。林。妙。の。む。い。令。せ。り。て。本。領。安。達。さ。さ。め。け
 れ。バ。中。川。大。に。感。快。す。恩。義。を。謝。して。退。出。たり。秀。若。木。中。川。成。情。地。不
 振。を。大。夫。田。の。城。主。安。部。仁。右。衛。門。を。將。依。に。付。く。勢。に。謀。を。示。さ。る。小。瀨
 美。清。美。義。多。く。孫。と。急。を。彼。取。一。赴。さ。け。り。并。も。遠。大。夫。田。の。城。と。い。ふ
 へ。大。坂。伊。丹。尾。傍。へ。通。路。自。在。の。處。ある。由。若。木。の。た。り。に。要。の。地。あり
 固。く。秀。若。木。智。謀。成。領。し。中。川。を。降。せ。大。夫。田。此。城。を。自。軍。の。有。さ。る
 一。大。坂。伊。丹。の。通。路。を。取。人。と。討。殺。し。事。あり。中。川。智。辨。を。獲。取。り
 て。安。部。仁。右。衛。門。を。降。ら。せ。り。吊。地。小。内。府。へ。納。り。け。り。也。信。長。ま。ま。く
 禮。成。せ。り。れ。仁。右。衛。門。瀨。美。清。美。人。へ。所。太。刀。所。馬。黃。金。等。賜。賜。せ。り。れ。

うんはくも津謝あり威服してそ退出は

平山合戦別所諸士我死属治定最期

昇る九の日我射墜は彬周が雲小柄し七月を取の法ありとも奇と
て怖るにいたるは豊公拳を袖ふし即時小之城を陥服せし實小
愕く厚く威はし然れども秀右内府の所前に出客に謀計致知
むるに此歳も暮小通るぬれを所帰陣ありて志ありきり方便を
言状ありにり内府諸陣へ洵らまき兵庫死懸須磨の若く悉く
放火して自軍の威光を志めさせられ其後遠地の衛兵を定むまづ
塚は小神戸信孝惟任長秀峰右頼隆蒲生氏郷これれ人小多
山右近長房我當副並に次小乞馬に衛護ふし小島信雄織田信包
澁川一益長孫宗右衛門を當並に倉橋小池田猪之弟同猪九弟

中川瀬を清右衛門作助に福山に福系彦六弟氏家左京亮安房平左
衛門助山小織田信澄塩川伯耆守加茂に中將信忠の人教ありて
當置れ大矢田に安教に右衛門助の如く護目と命属らる備又
羽柴ハ播磨小起さ惟任ハ丹波小向ふく款を攻むし命せありて
信長公に十二月廿二日に物津を渡せ安去へ所帰陣ありしは
當歳も暮て天正七年羽柴筑前守秀右へ奮々播磨に下向ふし
平山の城小を任して時く之を放火せしは小三弟長治徳を以て
と乳妨されども別所方の忍ぶ出城せしは小三弟長治徳を以て
や諸將張集めり軍議を多し時小侍大將ある久米右衛門忠
勝進出小居一計をなさん并も今軍成費さんとおぼさる自軍は
を二隊に配一隊ハ秀右の魁隊に蒐りまづ一戦を發むなり二陣の



三木の城
兵謀と
究めて
平山を
羽柴が
陣へ推
進す

三木の城



三木の城

兵にハ俺們加さる。奇を以てて。循環始る。變化常多。風の如く小攻段。べい。か。銘。さ。秀。有。あり。とも。防。ぐ。方。術。さ。る。る。一。尚。又。魁。を。利。ふ。に。時。ハ。これ。敵。陣。に。給。投。秀。右。と。刺。番。ハ。戦。死。ま。さ。骨。殖。り。別。將。謀。士。と。戦。え。ん。に。尋。常。の。計。策。に。さ。し。務。得。べ。い。と。洞。氏。放。ち。東。一。ける。小。七。満。座。一。回。これ。を。宣。う。長。治。も。共。小。随。ひ。け。色。を。明日。早。く。推。進。し。と。士。あ。つ。その。陣。を。定。む。小。魁。隊。大。月。山。城。也。これ。小。從。子。門。ハ。別。所。左。小。野。控。右。門。保。位。越。中。也。格。橋。孫。右。兵。衛。室。田。内。近。屋。村。岡。崎。守。高。橋。源。左。衛。門。神。保。氏。右。補。大。村。九。兵。衛。石。坊。門。也。七十。餘。人。使。率。を。合。せ。二。千。五。百。有。餘。人。二。陣。ハ。別。布。小。八。兵。治。定。同。甚。右。夫。亮。枝。同。小。四。兵。衛。久。米。五。右。衛。門。志。水。孫。四。兵。衛。後。部。五。兵。衛。右。衛。門。垂。井。武。藏。也。有。田。五。庫。頭。孫。山。左。馬。助。也。鉅。強。の。勇。士。六。十二。人。遣。兵。撰。く。七。百。餘。人。二。月。十。日。

此。登。天。小。門。を。涉。り。推。進。し。り。相。梁。秀。右。山。と。り。連。休。を。以。て。冷。美。ハ。敵。を。隊。伍。と。二。隊。ふ。り。ち。魁。軍。ハ。二。千。四。百。以。り。と。後。陣。ハ。僅。六。七。百。有。ハ。奇。正。虚。實。を。變。む。る。陣。也。先。陣。ハ。大。勢。を。り。く。自。軍。の。魁。隊。に。擊。て。蒐。集。有。兵。の。軍。と。ま。る。と。見。せ。し。け。二。陣。の。選。兵。六。七。百。小。山。の。才。暇。を。推。使。ら。せ。つ。旗。本。と。襲。え。ん。と。謀。り。こ。の。儀。く。一。也。先。遠。敵。を。激。塵。以。て。驚。し。門。ハ。勇。張。懸。す。と。よ。と。自。軍。の。諸。士。を。分。撥。以。ま。り。先。陣。ハ。加。藤。孫。六。左。衛。門。中。村。孫。平。二。平。野。控。平。時。便。實。小。六。同。又。十。兵。衛。大。石。孫。右。衛。門。一。柳。市。助。也。二。千。餘。兵。を。二。隊。に。り。け。一。隊。ハ。敵。と。戦。ふ。一。隊。ハ。威。勢。を。助。ま。く。俾。小。進。む。の。体。と。ん。せ。暗。号。の。旗。を。開。め。り。さ。り。取。り。返。し。て。旗。本。ハ。蒐。集。し。敵。の。後。を。斬。截。備。又。青。木。勘。左。衛。門。本。下。孫。右。衛。門。井。又。右。衛。門。神。子。田。右。衛。門。也。ハ。二。千。餘。兵。以。り。自。軍。の。諸。將。退。返。す。

胸敵を定て欣輝さん。と急に退蒐来々を志。其胸敵倭横隊より。進み自軍の魁隊が助け。後と襲えん作とるに急し。諸旗本八舍秀長。加茂虎之助。福清市松。片相助。作。藤堂與右衛門。坊田仁右衛門。倭一子餘人。指揮に急し。て我志し。と暗号を傳ふ。乃示流着ちの魔推搽。岷堆丘。小襲跡。且。將凡に誇る。く。漢を。別所。の懸勢。二。四。百。平。山。近。く。推。進。く。隊。伍。と。列。ね。つ。羽。柴。の。軍。多。く。な。れ。急。に。襲。撃。發。戦。あ。ら。う。と。お。も。ひ。の。外。小。一。誘。り。中。の。大。内。山。城。を。魁。去。に。指。揮。し。て。數。百。の。勇。士。を。數。萬。と。欺。き。蒐。し。其。際。途。く。推。進。し。り。胸。小。羽。柴。が。魁。隊。の。勇。士。加。茂。孫。六。中。村。堀。尾。松。浦。雲。又。子。の。一。千。五。百。突。と。襲。ひ。て。搦。攻。め。志。大。谷。平。野。一。柳。倭。同。く。一。千。五。百。餘。騎。に。く。後。隊。小。魁。く。推。進。し。双。方。突。戦。一。往。一。來。隊。伍。を。崩。さ。げ。梶。合。大。光。と。あ。ら。し。て。戦。ふ。最。中。

を別所の後陣七百餘人。急に横截する。山の才後をうち截て。山門地小秀右の本陣。目當り突蒐る。後加茂福清。片相助。嶮岷に馳つて。段人といふを秀右制し。く。示。さ。し。て。款。去。難。不。小。勇。を。色。け。れ。バ。後。中。に。引。傍。戦。ふ。と。利。あ。る。と。指。揮。し。て。傳。不。一。早。く。も。別。所。小。八。兵。治。定。七。百。餘。騎。み。く。嶮。岷。に。馳。つ。て。進。ま。る。此。も。指。揮。し。て。こ。そ。羽。柴。が。陣。中。一。突。抜。ら。ん。と。志。秀。右。魔。隊。打。振。て。己。を。蒐。ま。る。指。揮。と。一。齊。羽。柴。小。一。希。秀。長。之。川。の。險。を。推。把。し。一。番。に。進。む。こ。の。見。へ。し。り。が。心。魁。小。蒐。ま。り。別。所。の。勇。士。中。野。大。八。兵。衛。を。搦。伏。し。り。秀。長。の。家。臣。樋。口。孫。右。兵。衛。突。と。近。傍。を。首。を。捉。ま。秀。長。樋。口。奮。然。と。し。て。茶。後。左。右。搦。ま。る。其。勢。猛。ま。る。小。勇。を。六。せ。り。と。加。茂。福。清。片。相。助。の。猛。勇。士。列。と。し。て。斬。記。搦。伏。干。角。方。面。に。近。殺。志。ける。別。所。方。に。も。

曹臣記四編卷之十

十一

小八郎治定福年ふれども名譽れ勇士諸勢以懸す進むけるふ
 ぞ。久未ふ希左衛門忠勝志水証七郎忠親大勇不敵の豪傑を
 雙方共に名を情之義を重むる輩の必死とありて一足去らぬ大水
 とありて戦ひたる。斯うなるより筑前守暗号の旗を掲げり。一連
 掲げば魁隊ある。二陣の勢は大谷慶松一柳市助平野権平倅が千
 五百餘人烈風の像く取て返す。別所方の後面より。小八郎が七百
 餘人を中小提綱棚起れを了得小獲す。別所勢前ふ加藤福清海
 が。虎威劉威の勇士あり又後には大谷平野一柳の多勢をもつて
 を二之三小接起りては。いふをかりつて堪ふ。之を要時がうち小戦死
 希癡疊くくく山を添へり。大將治定これ偵視へり。斯ては總
 勢敗らる。と二百餘人准備せり。右院の兵代は人に進ませ一吐ふ

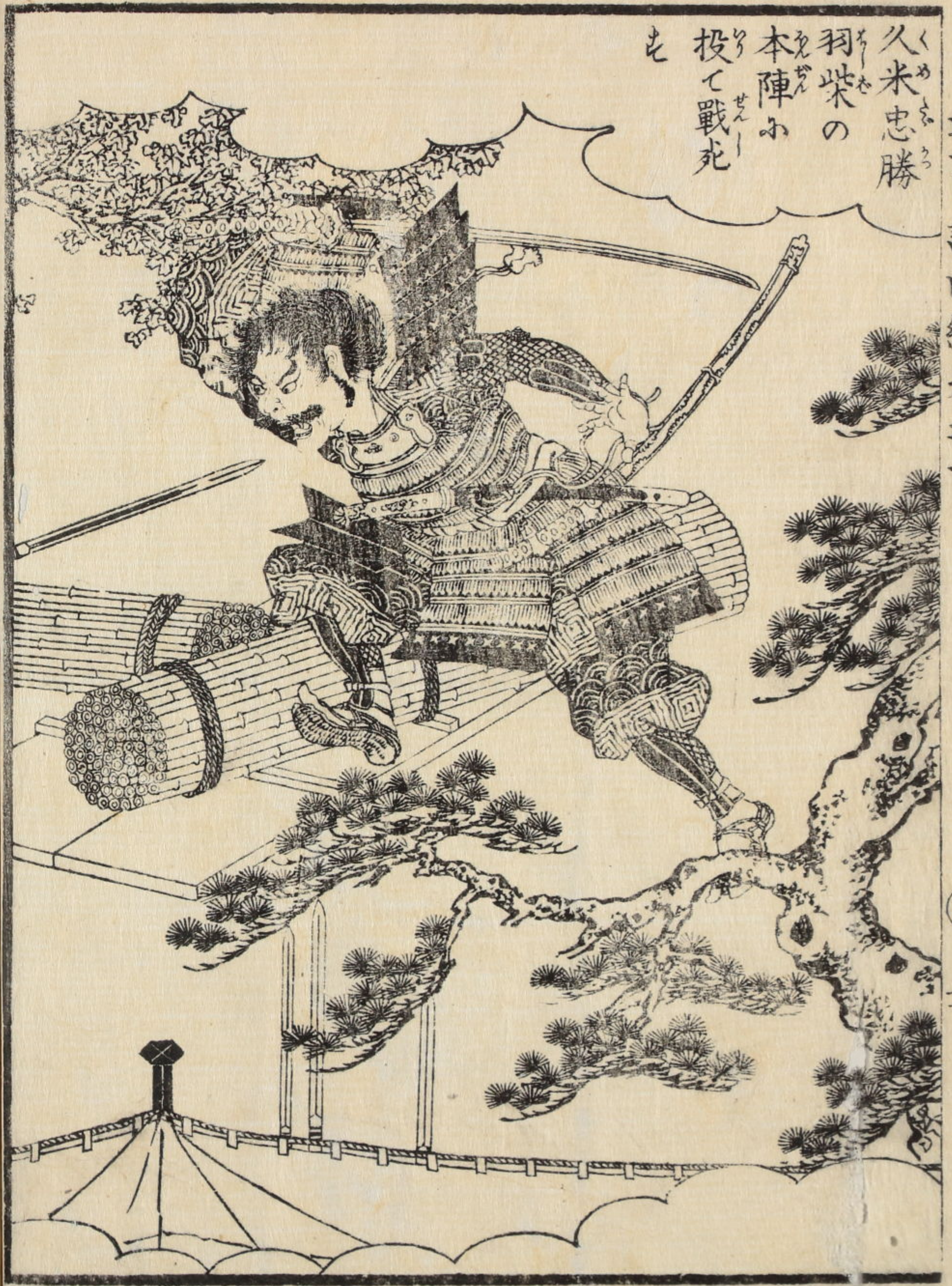
はる。蒐けられ。羽柴が魁隊これ小撃せり。橋津の隠伏別所勢探
 退小せんと掲へり。備又之本の先隊は。大内山城守賀相へ。羽柴が魁
 隊小續く勢に急お返す。浪見も。退崩えんと進む隙も。羽
 柴が旗本の脇隊は。青木本中。藤井倅。二千餘騎に。橋津
 より。敵の法陣へ。繞らんとす。其と見ゆるより。加藤孫六。輝源。小六。中
 村孫平。二堀尾。夜助。倅。ま。く。巍然と。種威を。顯す。攻。若。別所
 の。兵。守。最。後。を。撃。つ。と。忽。然。と。七。曜。起。て。羽。柴。が。勇。士。三。千。六。百
 最。後。方。ら。び。奮。殺。志。け。を。三。本。勢。大。半。斬。投。せ。り。一。町。許。退。ま
 くられり。浩る。和。別。所。治。定。百。騎。を。り。に。毆。滅。され。漸。く。と。ま。り。引
 退。き。山。城。守。と。一。隊。に。ある。大。内。賀。相。今。も。も。務。重。き。方。柄。も。あ。り。れ
 を。小。八。郎。を。守。護。せ。り。て。退。返。せ。んと。あ。り。る。所。へ。秀。右。衛。門。將。を。合。隊

豊臣記 四巻 卷之十一

十九



久米忠勝
羽柴の本陣
に投て戦死



とあり。五千餘騎に。隙隙も。舊地に逃極れ。れを勿く容易小
 退收ぐ。再び殿を軍多し。然るも久米も亦左衛門忠務志水孫七
 希重親の願く戦死と覚期せあり。友人等謀合せ。軍儀の席に
 詞に遠く。袖懐強投棄。甲兜を腹で繋繋。刀の鈍小敵二つ
 二つ。錯他の像く。鴉貫。羽柴が兵に終入。旗本近く。潜つ。面赤
 を既と視て。魏バ。大將秀右將几に誇。里。諸軍指揮してありける
 由。久米も亦左衛門密に收び。その際十歩に過さりけ。是を刀銃の
 穢を抛棄て。血刀打奮秀右に。詭蒐る。大右慶松。速くも觀属。之泣
 来。危ふくも中を推隔。久米忠務小謀合。過刻が。や。成戦ひける。志
 水孫七希も。も。既小。加。な。小。殿。たり。と。呼。る。希。に。亦。左。衛。門。
 戦ふ。希。の。も。合。く。腹。く。大。右。が。多。し。ぞ。殿。を。ける。然。る。も。別。所。小。八。郎。大。内。

山城守。友人。八。猿。を。率。ひ。て。落。行。を。羽。柴。勢。さ。び。く。退。蒐。く。六
 期。く。八。容易。退。收。ぐ。と。小。八。希。治。定。只。軍。騎。と。り。返。り。て。距。後
 以。これ。小。信。い。く。中。信。藏。人。孝。本。全。左。衛。門。松。本。又。右。衛。門。竹。下。全。右
 衛。門。孫。市。中。信。氏。於。小。補。後。取。返。り。て。戦。を。總。勢。も。借。小。返。り
 ん。む。別。所。治。定。大。音。あ。け。く。自。軍。遠。引。に。退。收。を。へ。く。負。せ。て
 して。殿。を。下。り。日。れ。防。戦。する。その。際。小。伏。退。收。よ。と。指。揮。する。に。て
 ん。殘。を。と。別。所。右。信。左。信。小。を。退。く。然。れ。も。治。定。を。殿。せ。と。と
 義。を。重。ん。む。る。亦。百。五。十。餘。騎。小。八。希。を。正。中。小。お。り。殿。せ。り。もの。と
 小。愛。可。化。し。亦。殺。後。害。の。紅。塵。ハ。落。花。の。風。小。謀。る。像。く。體。碎
 横。裂。の。腥。烟。ハ。筋。骨。透。く。沙。汰。棄。し。髓。血。流。く。泥。を。漲。る。小。時。が
 際。に。別。所。の。勇。士。小。八。希。滅。す。め。り。て。亦。本。中。信。氏。下。お。ん。ど。一

百六十有餘人。負をばくして戦死志たり。遠路に大内賢相ハ二百を
うりの乞士を拉く。三本城中へ退入り。嗚呼悔む。別不長治。越後
の軍を養め。股肱の勇士二十餘人。難をあたへ八九百。敗ま
りて。遠國那國離散すること。負をばくして大敗軍を争うたり。し
の眞む。後慮を以て。

受謀秀長。陷丹生山。柵寨。属石野合戦

旌を万里の外に懸て。威を崑山の西に揚る。豊公。今遠西國を伐の
ち。め功漸く。成来。大雄向。倍小。的當。後小。意本。柵津。当村。重内。府
を恨。之謀。殺せ。又。別所。長治。これに。前據。一。意本。把城。兵庫。花隈。
内通。して。柵。別。丹生山。柵寨。を。接。二。本。より。三。宅。典。平。次。高。橋。平。左。衛
門。の。友人。小。二百。餘。人の。乞。代。投。是。の。や。う。近。郷。四。百。の一。擡。二。百。餘。人。を

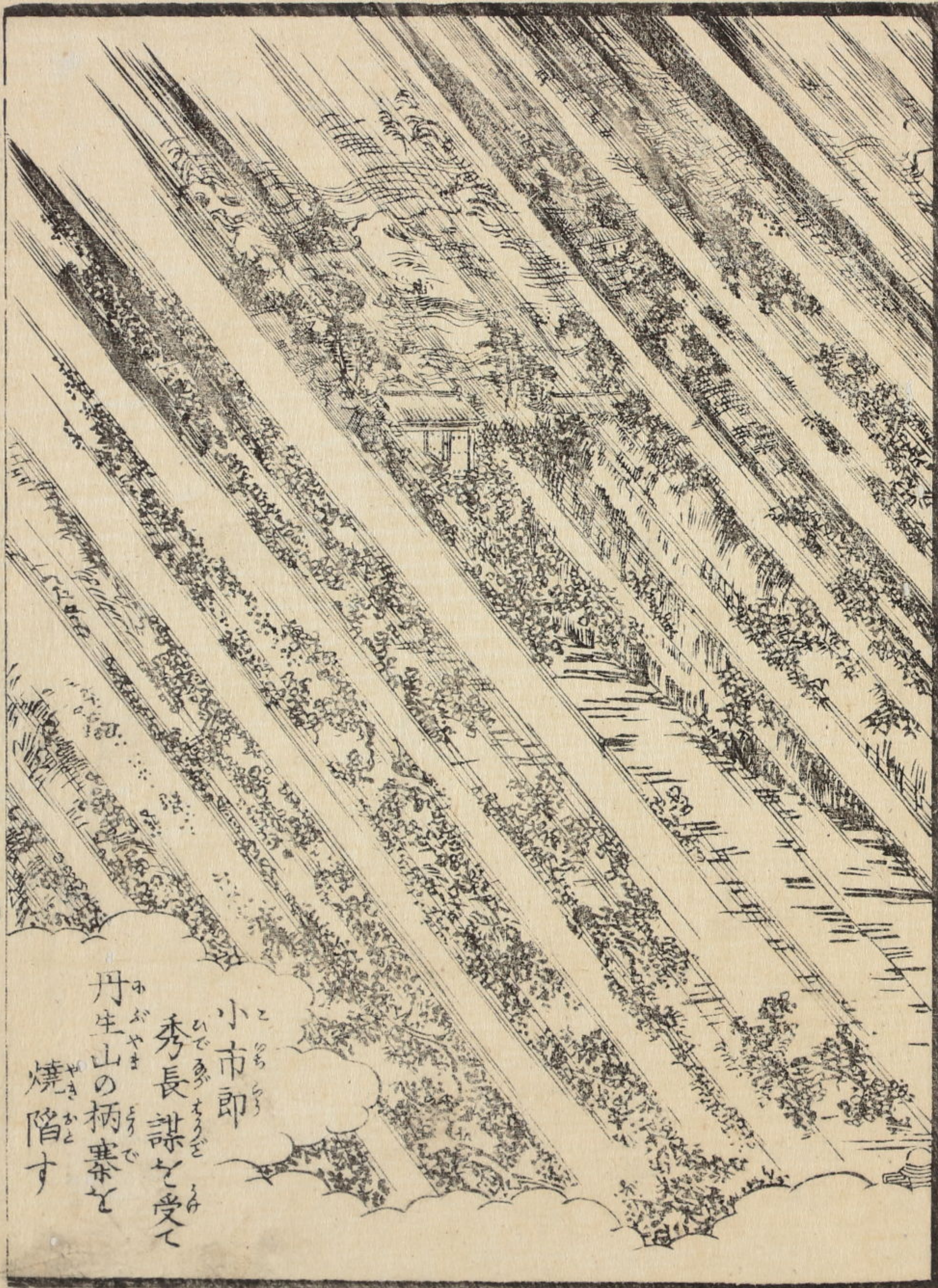
加。了。り。开。も。遠。丹。生。山。と。号。す。六。柵。西。舟。一。の。要。崖。に。く。嶺。此。く。絶。險
く。も。あ。り。て。絶。不。多。う。これに。依。り。先。遣。て。毛利。家。より
送。り。し。糧。を。遠。山。寨。に。納。置。く。堅。く。こ。も。成。復。ら。め。猶。程。遠。き。淡
河。の。城。小。淡。河。陣。正。定。乾。に。二。百。餘。人。を。相。添。え。丹。生。に。危。急。を。助。け。さ
し。然。る。小。秀。右。衛。門。尉。新。城。饒。ら。丹。生。の。柵。寨。を。隔。り。て。賊。人。と。屢。之
夫。を。疑。し。ける。う。憶。と。二。竹。沢。茶。ト。出。一。瀬。郷。小。熟。する。毛。末。を。六。十
餘。人。指。出。し。その。外。小。系。狹。率。を。五。十。人。を。り。呼。ぶ。て。これ。小。旗。旗
あ。り。て。成。持。あ。炬。把。も。あ。り。これ。小。意。ト。て。准。備。あ。ち。き。整。せ。置
形。の。兵。七。踏。不。絶。く。せ。奇。計。を。精。く。備。合。め。二。月。廿。六。日。の。夜。機。合
う。風。を。勵。志。け。き。を。これ。究。竟。し。時。節。あ。り。て。東。軍。の。頭。より。遠
兵。寄。を。丹。生。山。上。へ。潜。登。を。う。め。然。る。小。系。右。衛。門。尉。長。に。三。十。餘。人

を付属あり丹生山の麓に推進せさせ。山之晴号を所ハ那般と
 討らふ意あり。と謀計仔細小下辨あり。潜致にけり。然れど
 六十餘人の潜形の兵。丹生山の剛不到りけるが。黒白もつらぬ
 周といひ。殊不風雨烈しく。睦作こともあらず。けり。平生將
 が仁愛小投命去たる。忠臣をれを。浩く吟詠難不を厭ふ。岩根を
 攀。本の根を使。藉葛に助られ。幸も芳是聖人。あかく
 して。岩に登り。表謀測小併て。城内に。遠視つ近視つ。雨にこれま
 で一。夜も。兵の攀。降たる。得さき。増てや。風雨の烈。と。夜を
 れハ。藪。率。宵も。小心せ。食。悉く。熟。咽。て。軒の。声。れ。曲。に。所。つ。
 燈。燭。さ。も。の。つ。し。六十餘人の。做。果。ら。う。と。う。ち。飲。び。嚼。合。生。柄
 して。煤。を。系。論。都。と。城。中。へ。潜。投。た。り。ま。う。と。六十人の。彼。率。の。聲。

の。意。より。山。上。まで。二。三人。づ。次。才。に。急。連。准。儀。あり。る。紙。旗。火。炬。樹
 の。梢。に。結。着。城。中。暗。号。の。大。の。鼓。に。け。る。遠。火。把。火。を。移。し。人。と。片
 津。を。吞。で。候。在。たり。麓。の。方。に。羽。柴。秀。長。之。子。餘。人。を。一。面。に。列。行。
 果。多。の。旗。を。翻。て。せ。これ。も。同。く。山。上。の。暗。号。を。方。儀。と。行。に。窺
 ぶ。浩。く。け。り。不。と。小。城。内。へ。潜。投。し。る。六十餘人の。公。解。の。殿。舎。に。一
 一。時。小。火。を。放。費。喊。を。攀。ま。六。夜。鼓。を。投。た。り。あ。ま。と。呼。たり。喚。を
 り。近。廻。る。城。兵。ま。へ。の。東。西。响。小。慌。忙。と。噪。動。あり。咽。雨。眼。に。不。後
 も。視。分。び。金。赤。裸。に。奔。走。し。火。の。鼓。勢。に。駭。れ。り。六十餘人の。城
 の。声。を。百。万。人。も。城。中。へ。入。り。たり。と。心。怖。く。防。戢。と。さ。不。存。あり。遠。出
 人と。狼。狽。ま。つ。る。中。に。も。郎。氏。一。擡。書。ハ。氣。も。魂。も。身。小。傍。で。深。谷。一。轉。び
 墮。る。も。あり。嵩。南。樹。根。小。噴。く。百。鶴。千。倒。あ。り。と。あ。ら。ん。麓。を。見。入。れ。バ

豊臣日記 卷之十

十三



小市郎
秀長謀を受け
丹生山の柄寨を
焼陥す

数万の敵を、決すく小山が峯へ改登ると見え、懐しく大炬の火の
 旗幟幟連々くく、淮りあり。これふつと、懼を怖き。宛然柵木の野
 火に遠く、異を燒き、像く有り。三宅與平二、高橋平左衛門、遠く逃出
 路を覓め、之本城當て敗走、是を羽柴が兵も、丹生に柵
 寨を奪取し、曉つるる當天に、秀長人負を具率して、徳と柵寨に
 投積貯え、兵糧浅、悉く藁に運卸し、平山の陣へ賜を、秀長
 猶も諸士に指揮を、遠きを按さ、淡河へ推進せ、彼一城をも、乘破ら
 んと、之を一百五十餘人、准備せ、を洵流し、たり。駒小淡河の城を、淡
 河、彈正定範、軍慮に賢に、勇將を、丹生山の柵寨、去り、必
 定款を、遠城へ、推進せ、と、推量を、諸士を集め、示し、く、頼中、款
 遠城へも、進るあり、小當城に、淡く防めん、く、款進る路へ、出奔を、

没け、敵に、志が、と、五百餘人の、從士、淡率し、淡河の城を、一里、下、東へ、出
 て、地の理を、量り、路の方、右に、深林、小二百人づ、埋伏を、張る、百人の、軍士
 小、鋤形、孫を、把持せ、路、補藏する、体、成り、遠城、那城に、群り
 在り、斯、討略の、あり、とも、知、く、秀長の、魁隊、十餘人、孫、將、之、勢、小
 く、接、小、謀、く、持、進、し、が、羽、柴、が、斥、候、地、返り、て、淡河の、雜兵、百人を、め、り、道
 路、伐、掃、除、し、ゆ、り、と、何の、准、備、も、な、れ、る、あり、と、若、く、小、羽、柴、が、情、兵、者
 こそ、一、息、に、逃、散、り、て、單、騎、急、小、淡河へ、推、進、せ、入、小、せ、と、統、起、鋤、形、將
 持、たる、雜、兵、者、を、四、角、八、面、小、退、散、せ、る、百人を、め、り、去、業、ハ、統、驗、さ、て、散、乳
 去、け、る、羽、羽、柴、が、兵、士、候、傍、小、橋、り、と、逃、散、せ、ん、と、ま、る、平、淡、河、の、右、右、一、埋
 伏、さ、り、し、四、百、餘、人、の、淡、河、勢、一、時、に、費、つ、ま、く、弓、銃、擊、起、暗、密、却、り、し
 煙、の、中、より、長、賊、把、て、左、右、四、百、有、餘、勢、涌、出、激、流、を、ゆ、く、振、れ、像、之

かりても振らば擧起けしむ。秀長の兵士猛けきども懐殺けぬ事ある
 るもの。懐亡き故走々る代。淡河源正捨推把さうう。魁小征出く。款
 二十待下と段提て。登く。遠場成。遠收。淡河の城へ帰りける。要産よか
 らぬ城をれを大勢。款をむさうけく。防戦。地ふゆ。幸号を
 して城を奪えれ。賸。駿車を積えん。り。遠勢の成ぬ。早く之
 本へ。遠收。す。緒勢を率く。淡河を登出。之本。城當。退に
 ぐる。こ。七。賢。り。る。奉止。る。遠。响。羽。柴。秀。長。へ。魁。軍。れ。敗。れ。を。大
 小。頭。り。之。千。餘。騎。を。一。捲。に。て。淡。河。の。城。へ。推。進。る。款。一。人。も。あ。ら
 ざ。う。け。し。丹。生。淡。河。の。兩。城。ふ。番。兵。ま。さ。く。強。く。並。即。便。平。山。の。陣
 志。は。秀。右。大。小。飲。悦。せ。れ。秀。長。あ。ら。び。小。諸。勇。士。の。戦。勇。を。厚
 く。勅。励。め。食。菓。を。一。饗。賞。す。遠。般。の。功。勞。情。大。多。り。若。干。の。兵。糧。を

得。る。もの。あ。ら。び。之本。より。去。庫。花。隈。の。通。路。を。断。截。る。ふ。せ。去。本。方
 にも。別。所。方。も。消息。の。緯。借。る。雙。方。共。小。難。危。あり。別。所。方。共
 格。別。く。兵。糧。匱。う。り。る。もの。急。募。び。毛。利。の。扶。助。を。頼。ふ。之。百。餘。艘。の
 糧。船。を。東。播。の。海。へ。運。送。す。明。石。那。須。原。の。邊。へ。漕。儀。之。本。城。中
 を。扶。續。人。と。も。秀。右。頼。て。これ。を。察。悟。す。之本。と。急。隅。の。中。間。に。三。十。餘
 箇。所。の。柵。城。を。築。一。款。の。通。路。を。新。截。す。堅。固。ふ。これ。以。て。守。り。む。三。本
 の。城。を。か。わ。し。不。圖。若。し。い。か。ふ。も。あ。ら。く。通。路。成。固。に。毛。利。の。兵。糧。を。運
 入。ん。と。大。内。山。城。等。別。所。甚。を。失。加。右。左。亮。梶。原。平。之。去。湯。と。魚。陽
 集。人。佐。那。波。左。近。將。監。那。波。垂。井。氏。親。明。石。那。須。原。柵。橋。を。築。次。弟。加。藤
 これ。ら。の。門。へ。一。謀。と。合。せ。各。自。勢。を。引。率。し。て。時。刻。を。遠。く。擊。て
 發。一。隊。と。あ。り。て。推。進。す。神。子。田。本。方。等。右。田。右。左。衛。門。中。浩。孫。若。松

か凝ちしる。石野、新の若(臺)地小推進軍、縛急小改起。神子田、
 門これ視く。敵兵形まで極けを。忽に防津あき入り、只突出
 しく我ふを。と五百餘人を急鱗ふり。園風を用く。正門地小面
 も極く撃て突多勢。中へ乱殺して縦横を盡と。搦搦る。二本勢これ
 せ中に捕相有。統の隊是に。只一搦小撃倒せ。と一吐小放つ。統最に我
 元常、無様しく中。小吉田、長九、門。相壯う。これ馬、り。障るを垂
 井、民、能、負、成、提、う。神子田、中、活、今、の、也。と、百、餘、人、小、行、滅、され、危
 や。彼、軍、と、つ、る、石、野、の、相、塞、小、凝、守、た、る。中、村、孫、平、次、踏、須、野、小、六
 平、野、控、平、三、方、う。石、野、の、三、方、百、有、餘、騎、を、引、率、さ、し、及、く、下、石、野、へ
 馳、来、り。横、陰、入、り、搦、起、れ、を、神、子、田、中、活、筋、力、を、得、く。忽、地、隊、伍、を
 急、整、し。統、進、で、搦、く、我、ふ、今、の、二本、勢、大、才、疲、勞、し。合、戦、難、危、小、及

ふ機、會、う、る。秀、右、將、と、所、り、も、快、打、發、よ、と、指、揮、の、志、さ、り。加、藤、虎、之
 助、同、孫、六、福、徳、市、松、片、相、助、他、ら。一、千、餘、人、を、率、隨、へ、別、所、勢、の、後、よ
 り。橋、筋、も、あ、さ、で、撃、つ、菟、里、頼、に、狂、起、け、を、志、二本、方、を、下、久、徳
 ふ、と、急、務、く、し、く、我、乱、に、遠、中、小、何、る、垂、井、氏、社、八、最、前、右、田、右、丸
 山、が、首、撥、斬、り、老、黨、あ、る。早、石、新、吾、に、齋、せ、し、が、加、藤、清、正、これ、を
 視、く、自、軍、の、敵、を、互、に、小、何、也。敵、へ、所、害、と、搦、は、つ、返、せ、之
 せ、と、呼、り、喚、り、る。費、憤、あ、り、と、追、蒐、れ、を、垂、井、氏、部、ハ、り、と、こ、こ、と
 陸、を、隔、て、搦、之、合、法、心、垂、井、を、あ、ら、ひ、さ、う。家、臣、子、指、揮、し、く
 發、那、敵、提、返、を、急、し、と、呼、され、ば、こ、ろ、え、い、と、本、村、又、藤、遠、結、天、の、像
 く、走、傍、り、早、石、新、吾、が、齋、し、る、敵、を、急、奪、ら、ん、と、馳、蒐、れ、バ、新、吾、へ
 これ、我、奪、え、れ、と、激、氣、を、又、發、冷、笑、ひ、搦、さ、び、う、自、軍、の、敵、に



石野の戦場
 加藤主従
 義勇の
 激す



汝が誠を殉殺せん。と捉く撃伏首捨斬。古田が首に持添れば。垂井
 民部へこれ小警と。撲むところ。汝虎之助。只一鎗小柳落せ。本村處
 さら首刎墮。此ころこれ極威小別所勢大申。遠地小戦死して山城
 ち賀相も那波魚隔小距離あさせ。遠く二本へ逃投たり。羽柴方も
 今日もま。かもしの外小勝利を得。驍喜ふこと限り。城兵の戦
 ふ遭く小勇士。汝失ひ氣力を減し。今の玄糧運糧の通路も全之終
 塞ぐれ。困窮言語絶倫あり。是にありて中國勢も。二本城扶續不方
 便多。虚しく本國へ帰帆あり。是を秀吉。務軍を考はる中にも。加藤
 從が遠般の權大張義あり。勇あり。賞義する。ことむ。ころ。あ
 び。此等の鋒を安大境へ使者も。言状あり。るを内府大。小功賞せ
 られ。又汝加勢を遣。ま。と。く。三位中将信忠を大將と。て。城回。七。五。將

佐澄。堀久。ち。秀政。あ。び。小。城。前。衆。小。前。田。又。右。馬。門。村。家。流。く。内
 務。助。成。政。系。秀。四。存。金。藏。公。前。八。不。破。河。内。吉。傳。三。万。五。千。有。餘。人。口
 月。土。日。せ。り。七。揚。州。へ。下。向。何。り。な。ま。を。前。般。小。交。易。こ。れ。ら。の。諸。將。を。領
 て。より。秀。吉。の。智。勇。小。振。せ。り。人。々。あ。ま。を。進。退。全。然。こ。と。代。得。て。大。事。自
 然。と。成。務。ま。る。奇。策。驍。戦。の。候。柄。羨。あ。る。又。編。の。表。に。懸。る。こ。と。に。

繪本豊臣勳功記四編卷之拾終

安政七年庚申四月出版

編輯者東京 櫻澤堂山

畫工 同 一勇齋國芳

出版人 大阪書林 岡田茂兵衛

同 東區博勞町四丁目 松邨九兵衛

發賣人 東京書林 山中市兵衛 芝區三島町

